

## 添付 (セッション3: サマリー)

### 新プロジェクト「持続可能な農業に向けた多機能バイオ肥料」の目的と議論のポイント

1. 人々の繁栄のため食物量を十分供給するための効率的な生産が重要だが、食物収量を増やすための化学肥料の過剰使用により引き起こされた環境汚染は世界的な関心事項である。
2. この矛盾にとりくむため、化学肥料に代わりできるだけ多くのバイオ肥料を利用することは、実現可能で適切なアプローチである。
3. この観点から、新プロジェクトは、植物病害を抑制するのと同様に植物成長促進機能を持つ異なるタイプの微生物を混ぜることにより、品質が保証された多機能バイオ肥料接種材の開発を目指す。微生物は、はじめは従来の菌株から選抜される。長期開発では、適切な放射線により誘発される微生物変異が研究される。
4. 放射線は微生物を殺し効率性の高い滅菌技術であると立証されており、医療品や食品包装の滅菌に広く利用されている。
5. バイオ肥料接種材生産のため、放射線滅菌技術はオートクレーブによる高温蒸気滅菌の代わりに清潔なキャリアを生産するために使われる。蒸気滅菌はより大きな作業エネルギーを必要とする。本プロジェクトでは、より良い品質管理とより長い保存期間の接種材を生産するためには、キャリアの放射線滅菌が品質の点でより優れていると明示すべきである。
6. バイオ肥料の確実な効果を明確に示すために、異なる植物、病気、土壌、気候でポットおよび圃場試験が行われるべきである。
7. 農家のニーズに合わせ植物成長/病気抵抗を改良するために、各国は農業省と協議の上、最も適切な植物を選択する。
8. 研究開発の成果は、専門雑誌により発行され、農家および公衆に広められるべきである。
9. 新たに開発されたバイオ肥料のエンドユーザーへの拡大は、研究機関と、農家や彼らの地域に密接にリンクした関連組織の協同努力により達成されるべきである。
10. 放射線照射施設を持つ政府系原子力研究所は、キャリア照射のために農業研究グループをサポートすべきである。FNCA コーディネーターが各国における原子力研究所と農業研究グループの協力を促進すべきである。
11. 協力して効率的に作業するためには、選択された国により、作物、土壌環境、耐病性、そして共通して対象とされた成長増加を選択することが望ましい。これらの国々は共通の目標を効率的に達成するために作業と情報を共有する。
12. このワークショップは、いくつかの対象となる微生物、バイオ肥料、作物を選び、グループとしてどのように効果的に協力できるかを議論する機会となる。